

パイロットフォレストを活用した森林・林業の普及啓発への取組み

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
林 直樹・朝倉基博

1. 課題を取り上げた背景

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターの活動区域内には、先人たちが多くの困難を克服し、1万ヘクタールもの原野を一大造林地に作り上げた「パイロットフォレスト」（以下「PF」という。）と呼ばれる一大造林地があります。（写真1）



写真1 上空から望むパイロットフォレスト

PFは昭和32年から本格的な造成が開始され、現在では区域の約72%が森林で占められ、蓄積は約99万 m^3 を有しています。また、PFは森林環境教育のフィールドとしても良好な環境を保持しています。

しかし、PFが所在する釧路管内でもPFの認知度は低いことから、多くの人々にPFの素晴らしさを知ってもらいたいと考え、様々な取組を通してPFの情報発信に努めています。

2. 取組みの経過

PFの認知度を高めるため、以下のような取組をとおして情報発信に努めてきました。

(1) 木製歩道・遊歩道の整備

PF造成50周年（平成18年）に合わせて木製歩道を整備し（写真2）、その後平成19～22年にかけて研修棟から別寒辺牛湿原を経由して望楼までの約1.5kmの遊歩道にウッドチップを敷設しました。（写真3）



写真2 ユニバーサルデザインによる木製歩道



写真3 ウッドチップを敷設した遊歩道

(2) 釧路市子ども遊学館との共催による森林・林業体験活動の支援

毎年夏休みに釧路市子ども遊学館が参加者を募集し、当センターが体験イベントを支援する形で開催し、小学生の親子を対象に「フォレストスクール 自然の中で遊ぼう！学ぼう！」を実施しています。

子供達が楽しみながら学べる内容となるように、チップ歩道に景品を埋めておいて宝探しをしたり、火起こし体験や花炭づくりで火吹き竹を使ったりと、子供達が実際に体験できるよう工夫しながら実施しています。(写真4)



写真4-① 森林の中で宝探し



写真4-② 火起こし体験



写真4-③ 花炭作りで火吹き竹体験

(3) 教職員を対象とした森林ふれあい講座の開催

子供達への森林環境教育にPFを活用してもらうためには、まず先生方にPFがどのような森林かを理解いただくことが大切です。環境教育に携わる学校の先生方を対象に森林・林業についての基本的な知識を身につけてもらうため、実際に樹木に触れ、林業を体験する「森林ふれあい講座」を平成17年度から実施しています。

この講座では、森林内での樹木観察や、枝打ち・間伐などの体験、当センターの取組内容のPR、PFのフィールド紹介などを実施しています。

毎年、教育委員会を通じて釧路管内の小・中学校に参加者を募り、先生方の子供さんも参加できるよう夏休み期間中に実施するよう進めてきました。しかし、なかなか参加者が集まらず、開催できない年もありました。(写真5)



写真5-① 森林内での樹木観察



写真5-② 木道からの植物観察



写真5-③ パイロットフォレストの紹介

(4) 釧路教育局と連携した教員初任者研修の実施

平成22年度は、北海道教育委員会釧路教育局が行う教員初任者研修に「環境教育の指導法」として森林環境教育の項目を組み込んでほしいとの要請があり、PFをフィールドとして森林・林業の体験講座を実施しました。

釧路管内の小・中・高校・特別支援学校に平成22年度に新たに採用された教員の方が対象で、今年度は76名の参加がありました。

研修では、間伐体験、枝打ち体験、カミネッコンによる苗木作りと植樹、望楼からPFの見学を実施しました。(写真6)



写真6-① 間伐体験



写真6-② 枝打ち体験



写真6-③ カミネッコン苗木の植樹

初任者研修では、参加者76名に対して、今後の森林環境教育活動の充実を図るため、「森林との関わりについて」、「森林環境教育について」、「パイロットフォレストについて」などのアンケート調査を行いました。

回答者は、小学校、中学校、高校の先生がほぼ3分の1ずつといった状況でした。(図1)

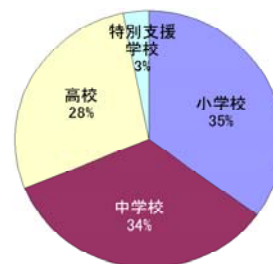


図1 回答者の勤務する学校

「児童・生徒に『森林の様々な働きや仕組み・森林と人間の関わり合いの学習』や『森づくりのための森林・林業体験活動』を取りませたいと思いますか。」の質問に対して、「総合的な学習の時間で取りませたい」46%、「総合的な学習の時間以外の機会に取りませたい(例. 見学旅行、既存の学校行事など)」27%、「国や道などの行政機関が協力してくれるのであれば取りませたい」15%などとなりました。(図2)

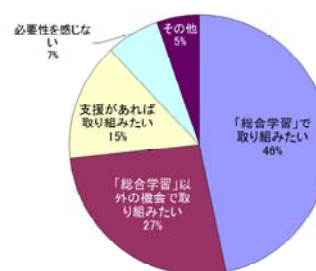


図2 森林との関わりについて

この結果を見る限り、何らかの森林に関する学習や体験を行いたいという要望は高いようです。

次のグラフは、「あなたの学校で、森林環境教育に関する学習や体験を行うとしたら、どのようなことをさせたいとお考えですか。また、その内容に相当と思われる対象学年を教えてください。」の質問に対して、それぞれ内容を実施するのに相当と思った対象学年の分布状況を表しています。(図3)

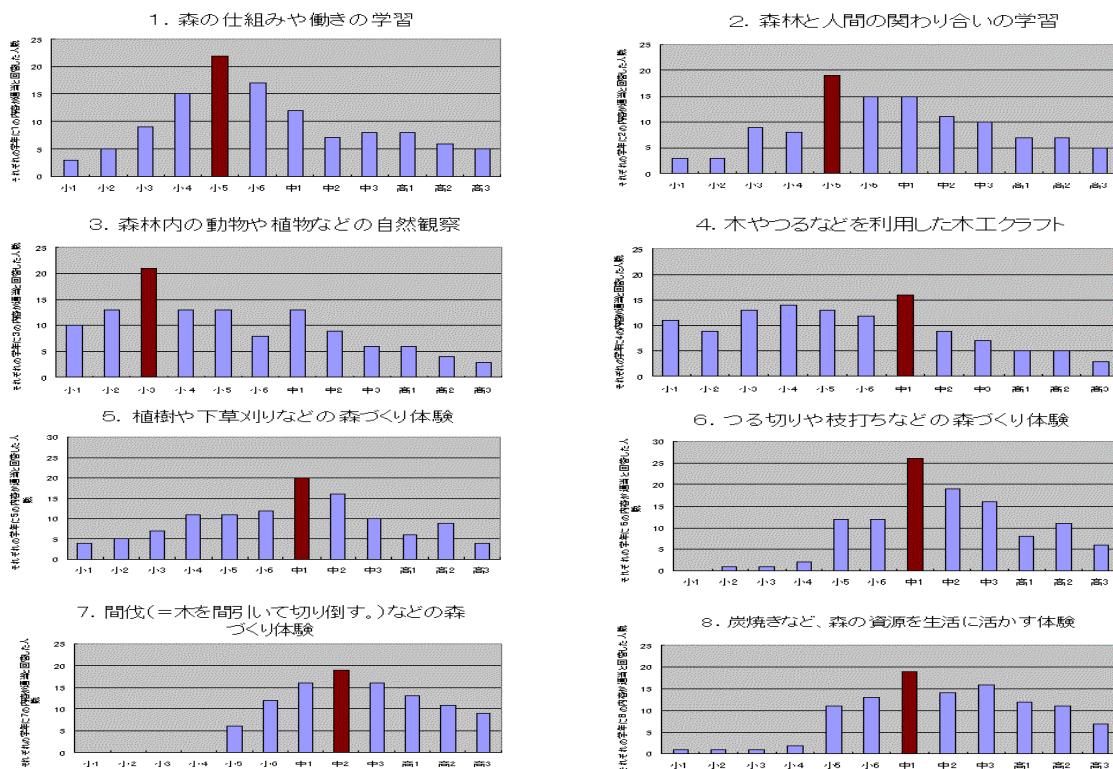


図3 森林環境教育について

これらの結果は、学年に応じて森林に関する学習や体験を行うに際して参考となると思われます。

また、研修参加者に対して「パイロットフォレストについてご存じでしたか？」の質問したところ、「以前から知っていた」5名(7%)、「初めて知った」70名(93%)という結果でした。

やはり、釧路管内の先生方の間でも、パイロットフォレストの認知度は低い結果となりました。(図4)

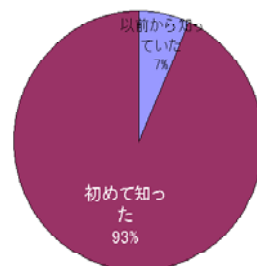


図4 パイロットフォレストについて

(5) お年寄りを対象とした森林利用サポート事業の実施

普段、森林に入る機会の少ないお年寄りを対象とした「森林利用サポート事業」を平成21年度から実施し、22年度までに計4回実施しました。

P Fでの森林浴や森林体験等を通して、P Fの概要や造成の歴史等を知ってもらうことを目的に実施しています。

お年寄りを対象に様々な体験活動を提供している市民団体の広報等を通じて会員にP FをPRし、ユニバーサルデザインによる木道等を活用して森林にふれあう機会を提供しています。

(6) 学生実習、その他

当センターで実施しているP Fでのその他の取組としては、京都大学等の学生実習の支援、近隣小・中学校の森林環境教育のフィールドとしての活用、一般市民を対象に森林づくりボランティアとしての森林の整備・保全活動に必要な森林づくりのノウハウや林業技術等を付与する「森林ボランティア養成講座」や自然再生事業の各種作業に参加している「雷別ドングリ倶楽部」の会員のフィールドとして活用しています。(写真7)



写真7-① 京都大学学生実習



写真7-② 近隣小学校の森林環境学習



写真7-③ 森林ボランティア養成講座



写真7-④ 雷別ドングリ倶楽部

(7) 森林管理署との連携

これらの取組の他、根釧西部森林管理署や釧路総合振興局が主催するP Fでのイベントを支援しています。

さらに、森林文化協会が主催する森林セミナー、J I C A研修生の受け入れ、様々な視察受け入れなど、これらの取組に当たっては、P Fの概要、造成の歴史、ふれあいセンターや森林管理署の業務内容の説明など国有林の仕事についてもP Rし、林野庁が行う取組への理解を深めてもらうため、ビデオや資料を使って実体験を通して伝えるようにしています。(写真8)



写真8-① 森林管理署主催イベント支援

写真8-② 森林文化協会主催：森林セミナー支援

写真8-③ JICA研修生の受け入れ

3. 取組を実施して

2(1)の遊歩道整備が平成22年度に終了し、研修棟一望楼間約1.5 kmがつながったことから、森林環境教育等のフィールドとして活用を図るとともに、樹名板・解説版等を設置してより教育効果の上がるフィールドとしていきたいと考えます。

2(2)の親子や子供たちを対象とした取組については、P Fを情報発信していく取組として有効な方法です。

2(3)(4)の教職員を対象とした研修については、22年度に実施した教育局の研修に組み込んでもらうスタイルが研修効果も高いことから、引き続き釧路教育局に連携を働きかけていくこととしています。

2(5)のお年寄りを対象とした取組は徐々に広がりを見ており、身近にこのような素晴らしい森林があったことに驚く参加者が多くみられます。

2(6)(7)の森林環境教育の取組は、P Fの概要、造成の歴史、ふれあいセンターや森林管理署の業務内容の説明など国有林の仕事についてもP Rし、林野庁が行う取組への理解を深めてもらうため、ビデオや資料を使って実体験を通して伝えるようにしています。

4. まとめ

P Fを知ってもらうことは、以下の1～3に通じると考えています。

- 1) 荒れ果てた原野から自然豊かな森林に再生したP Fで行う自然観察や森林教室を通して、森林への興味を醸成し、森林の仕組み・働きについて考えるきっかけになります。
- 2) 森林の造成が地域の農業や漁業の振興に大きく貢献していることを理解し、森林と・人間との関係について考えるきっかけになります。
- 3) 広大な原野に短期間のうちに森林を造成した技術や地域の人々の協力について理解し、人間と自然の関係、環境について考えるきっかけになります。

今後も様々な取組をとおしてP Fの情報発信に努めていきたいと考えています。